

第30回（令和5年度第2回）
セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会
《久留米市セーフコミュニティ現地審査》

《会 議 次 第》

日時：令和5年7月31日（月）11：30～12：30

場所：久留米シティプラザ 大会議室

1. 開会

2. プレゼンテーション

3. 質疑応答

4. 閉会



プロフィール

審査員

◆ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) ◆

- 博士(看護学)
- インジェ大学看護教授(2021 年より学部長)
- 内務・安全省、国防省、韓国消防庁、韓国防災研究センター等
政策アドバイザー
- 釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センター ディレクター
- 国際セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員



ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得(看護学)。2005 年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ及び安全・安心に関する分野では豊富な経験を有しており、国レベルでは、上記以外にも様々な省庁において安全に関する政策アドバイザーを務める。また、地域においては、インジェ大学国際セーフコミュニティ研究機構のセンター、釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センターのディレクターとして 7 自治体(うち 4 自治体は広域市)の支援を行う。

国際セーフコミュニティおよび学校版 SC であるインターナショナルセーフスクールの審査員として各国の審査においても豊富な経験を有しており、これまで主審査員及び副審査員として日本をはじめ 20 以上の自治体の審査を担当しており、久留米市においては前回の審査も担当している。

◆レザ・モハマディ (Reza MOHAMMADI) ◆

- 国際セーフコミュニティ認証センター センター長
- ストックホルム郡ヘルスセンター長
- カロリンスカ研究所(医科大学) 研究員
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



イランにおいてイラン CDC(疾病予防管理センター)のセンター長を務めたのち、スウェーデンのカロリンスカ研究所社会医学部公衆衛生学科において研究を始める(現在も研究員として在籍)。

2004 年から 2015 年の間、WHO 地域安全向上のための協働センターの上席アドバイザーを務める。2015 年からは国際セーフコミュニティ認証センターの副センター長、2023 年からセンター長を務める。

1996 年から 25 年以上にわたってセーフコミュニティの分野にかかわっており、これまで 40 以上の認証審査を担当してきた。

◆グールドブランド・シェーンボリ (Guldbrand SKJÖNBERG) ◆

○国際セーフコミュニティ認証センター

理事・ジェネラルマネジャー

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

1970年代に北欧現代計画研究所に籍を置き、大学院で現代都市計画プランナーとなった後、米国タフツ大学において公衆衛生を学ぶ。その後、スウェーデンに戻りウプサラ大学においてリーダーシップ高等教育を受ける。

卒業後は、公衆衛生職員として行政での経験を重ねた後、国の保健福祉委員会において実績を積んだ。さらに、基礎自治体であるナッカでの20年を経て環境省に移った。その後、コミュニケーション省、総務省などで環境分野の専門家として実績を積んだ。

セーフコミュニティに関しては、草創期から制度の立ち上げ、普及にかかわるとともに、コミュニティにおける活動の支援にかかわってきた。

また、審査員として1989年から今日まで、ヨーロッパ、南米、アジア(日本含む)、オセアニアのコミュニティの審査を担当している。



オブザーバー

◆マイケル・ウィルソン (Michael WILSON) ◆

○ハイデルベルグ世界健康研究所(ドイツ)

傷害疫学ユニット長

○ICT 大学 公衆衛生学部准教授(カメルーン)

○トゥルク大学医学部(傷害疫学)准教授(フィンランド)

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、これらの国々に加え、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。現在は、フィンランドのトゥールー大学大学院に籍をおき、非常勤教授として外傷予防に関する研究を進める。

その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニア外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして地域レベルでの安全の向上に取り組んでいる。

また、セーフコミュニティの審査員として欧州・アジアをはじめ各国の審査を担当してきた。



コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- 韓国仁済大学(インジェ)大学 顧問教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。これまで、国内17自治体のSC活動と30の保育所・小学校・中学校を支援するとともに、セーフコミュニティ、セーフスクールの研究を続けている。また、公認認証審査員として、アジアを中心にセーフコミュニティ及びセーフスクール活動の支援及び認証審査を行っている。

久留米市セーフコミュニティ現地審査 スケジュール

場所：久留米シティプラザ 5階 大会議室

	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	全体概要 〈9:15～10:00〉	⑤交通安全対策委員会 〈9:15～10:15〉
10:00	外傷等動向調査委員会 〈10:15～11:15〉	⑥防犯対策委員会 〈10:30～11:30〉
11:00	①児童虐待防止対策委員会 〈11:30～12:30〉	⑦DV防止対策委員会 〈11:45～12:45〉
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	市内視察 〈13:30～15:30〉 ※移動含	⑧自殺予防対策委員会 〈14:00～15:00〉
14:00		審査員ミーティング 〈15:10～15:50〉
15:00		
16:00	③学校安全対策委員会 〈16:15～17:15〉	審査員講評 〈16:00～17:00〉
17:00		
18:00	④高齢者の安全対策委員会 〈17:30～18:30〉	

7月31日（月曜日）午後「市内視察」及び「防災対策委員会」のスケジュールを変更しています。
防災対策委員会については、別途審査を受ける予定です。

指標 3, 4, 5



久留米市セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

発表日 2023年7月31日
発表者 児童虐待防止対策委員会 委員長 吉岡 マサヨ
所 属 NPO法人 ル・バトー

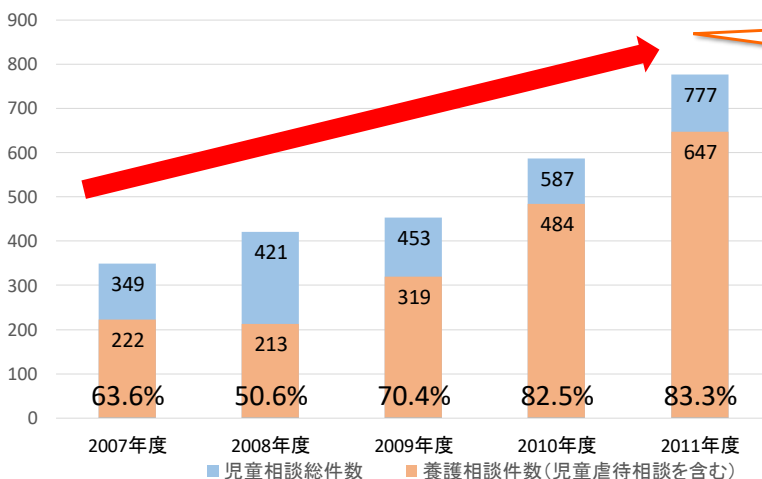
みんなで取り組む安全安心まちづくり

1

1-1. 児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

<単位:件>

【図表1】 児童相談対応件数



児童虐待に関する相談
件数が年々増加傾向

児童虐待防止のため
取組の強化が必要

セーフコミュニティで
児童虐待防止の取組を！

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2

1-2.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

【図表2】 久留米市における児童虐待の重大事件

	発生日	事件名	被害児	加害者
1	2010年6月	傷害致死事件	5歳女児	実母
2	2011年8月	傷害・保護責任者遺棄事件	2歳女児	実母・内夫
3	2012年2月	傷害事件	4歳男児	実父
4	2012年5月	乳児死体遺棄事件	0歳男児	実母
5	2012年7月	傷害事件	5歳女児	実母

久留米市において児童虐待の重大事件が発生



それぞれの家庭が地域から孤立していた



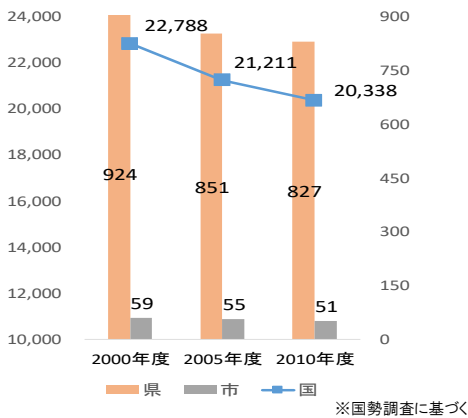
セーフコミュニティで子育て家庭の孤立化を防ぎ児童虐待防止へつなげる

1-3.児童虐待防止対策委員会の設置の背景 <取組開始時>

1. 減り続ける子どもの数

【図表3】 国・県・久留米市における子ども(18歳未満)の数の推移

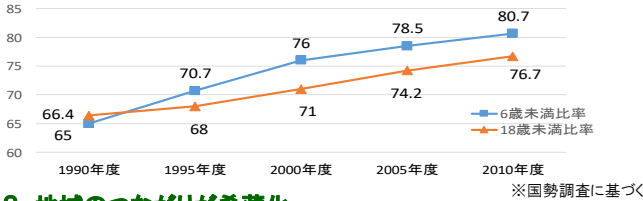
<単位：千人>



2. 子育て家庭の核家族化が進行

【図表4】 子どものいる家庭に占める核家族世帯の推移(久留米市)

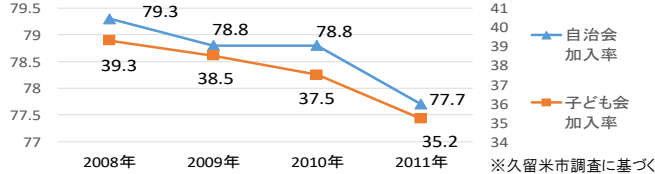
<単位：％>



3. 地域のつながりが希薄化

【図表5】 久留米市内の自治会加入率と子ども会加入率の推移

<単位：％>



2.児童虐待防止対策委員会の構成メンバー(2023年現在)

区分	所属
民間団体 住民組織等	1 久留米市私立幼稚園協会
	2 久留米市民生委員児童委員協議会
	3 (一社)久留米市保育協会
	4 (特活) にじいろCAP
	5 (特活) ル・バトー
	6 (特活) 子育て支援ボランティアくるるん
	7 久留米市小・中学校PTA連合協議会
	8 久留米市校区まちづくり連絡協議会
関係機関	9 福岡県久留米児童相談所
	10 久留米警察署
行政機関	11 久留米市子ども未来部子ども政策課
	12 久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター
	13 久留米市子ども未来部家庭子ども相談課
	14 久留米市教育部学校教育課

2019年追加

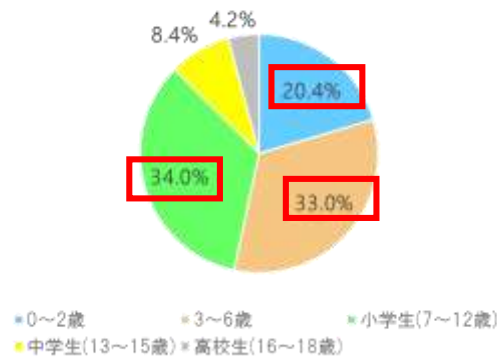
みんなで取り組む安全安心まちづくり

5

3-1.データに基づく課題

被害者の約87%が小学生以下

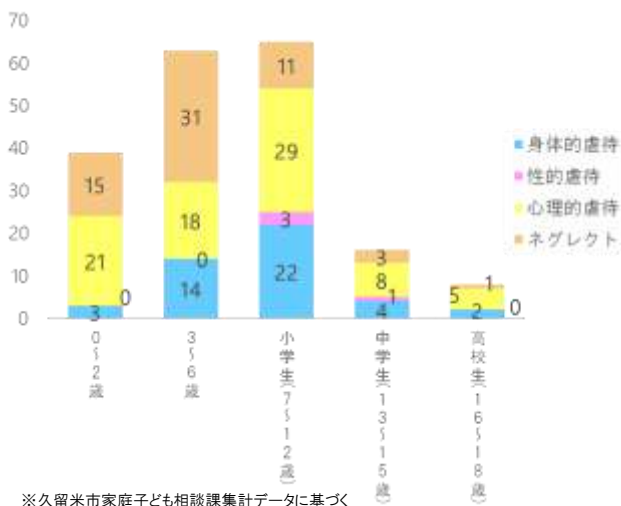
【図表6】虐待被害者の年齢構成 (2021年度)



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく <N=191>

【図表7】虐待の種類別・年齢別対応件数 (2021年度)

<単位: 件>



※久留米市家庭子ども相談課集計データに基づく

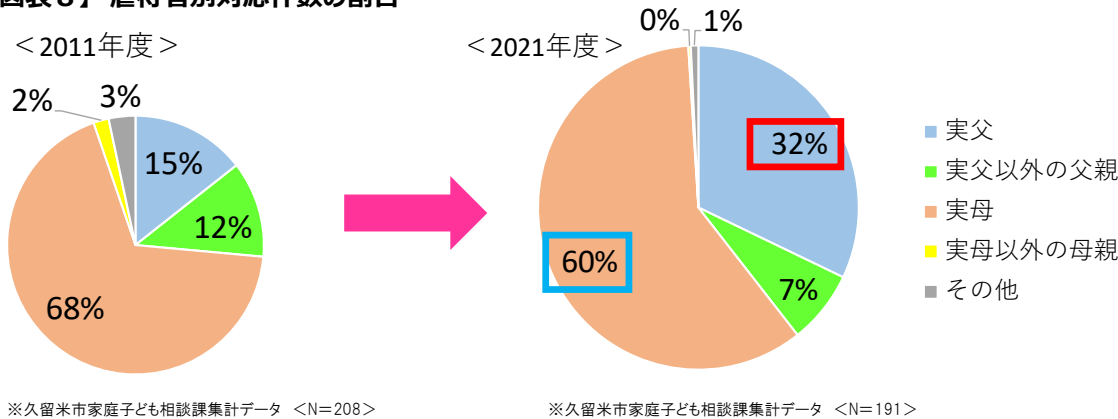
みんなで取り組む安全安心まちづくり

6

3-2.データに基づく課題

虐待者の約6割が実母であるが、父親の割合も増えている

【図表 8】 虐待者別対応件数の割合

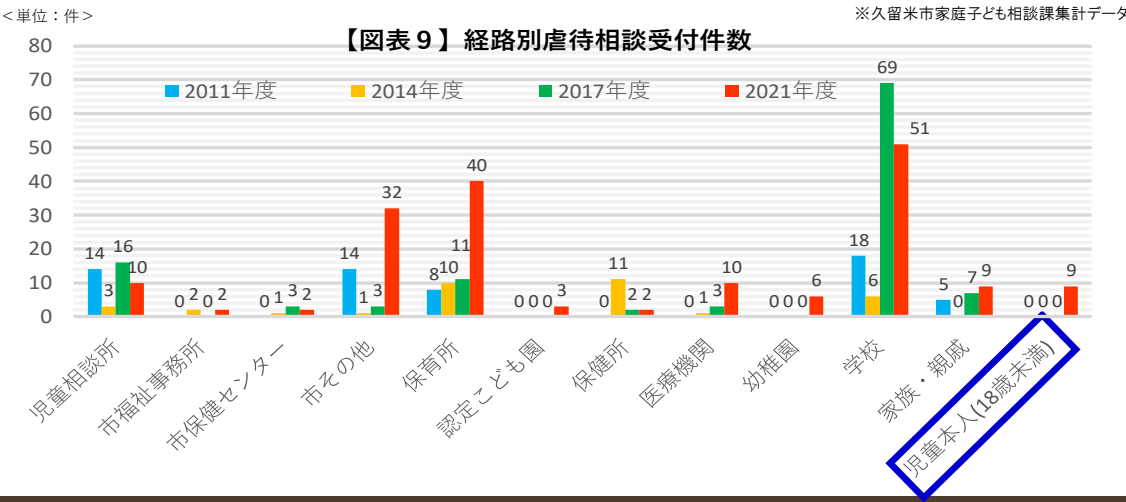


みんなで取り組む安全安心まちづくり

7

3-3.データに基づく課題

子ども自身からの相談が少ない



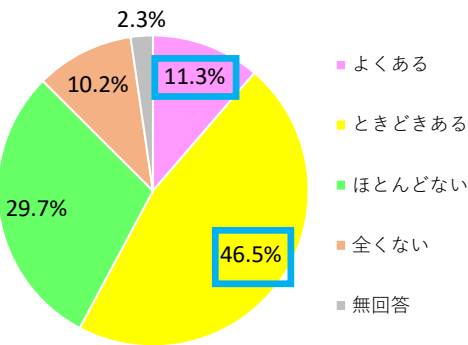
みんなで取り組む安全安心まちづくり

8

3-4.データに基づく課題

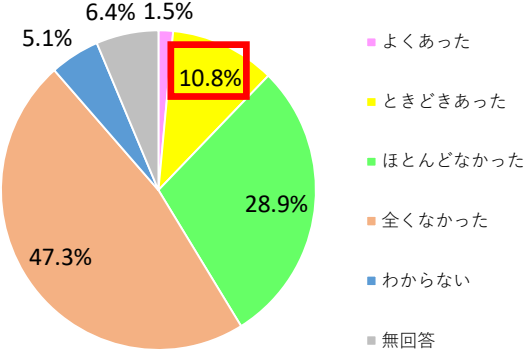
子育ての困難を感じたことがある人が約6割いる

【図表 1 0】 子育てに困難を感じることの有無



※2021年久留米市SC実態調査 <N=471>

【図表 1 1】 児童虐待をしているのではないかと考えた経験

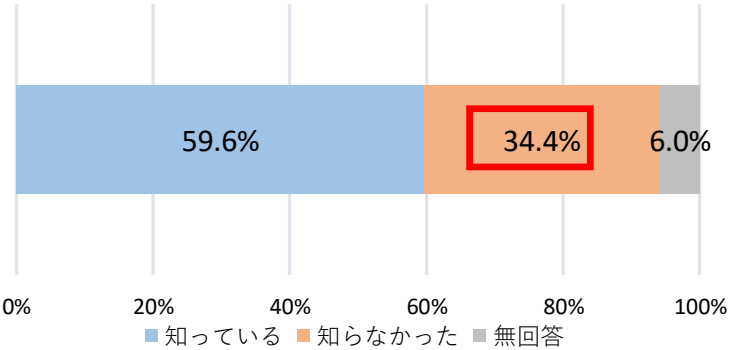


※2021年久留米市SC実態調査 <N=471>

3-5.データに基づく課題

子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している

【図表 1 2】 子育てに関する相談窓口について



※ 2021年久留米市SC実態調査

3-6.データに基づく課題

子育てに困難を感じながらも相談する人がいない人が存在している

【図表 1 3】 子育てに関して相談できる人がいるか【子育ての困難さを感じるかの有無別】（複数回答）

	サンプル数	同居中の家族	友人や知人	他に住んでいる親族	市家庭子ども相談窓口	民生委員や主任児童委員	NPOなど民間の相談機関	県や国の相談機関	その他	相談できる人はいない	無回答
全 体	471 100.0	293 62.2	243 51.6	217 46.1	17 3.6	12 2.5	8 1.7	3 0.6	8 1.7	14 2.9	37 7.9
感じる 子育ての 困難さ の有無 を別	よくある	53 100.0	28 52.8	28 52.8	24 45.3	7 13.2	4 7.5	2 3.8	0 0.0	5 9.4	2 3.8
	ときどきある	219 100.0	143 65.3	130 59.4	113 51.6	4 1.8	5 2.3	5 2.3	1 0.5	4 1.8	4 1.8
	ほとんどない	140 100.0	94 67.1	70 50.0	62 44.3	5 3.6	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 2.9	15 10.7
	全くない	48 100.0	27 56.3	13 27.1	18 37.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	1 2.1	1 2.1	7 14.6

※ 2021年久留米市SC実態調査

みんなで取り組む安全安心まちづくり

11

4.課題解決のための目標と具体的施策

課 題

目 標

具体的施策

- ・虐待者の約6割が実母である【図表 8】
- ・子育てに困難を感じる【図表 1 0】
- ・相談窓口を知らない人がいる【図表 1 2】
- ・相談できない人がいる【図表 1 3】

地域で気軽に
相談できる
体制作り

①新生児訪問事業の
地域連携

- ・大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している【社会的背景】

命の大切さを
学ぶ教育の
支援

②赤ちゃんふれあい
体験事業

- ・虐待被害者の多くが小学生以下である【図表 6】
- ・子ども自身からの相談が少ない【図表 9】

子ども自ら
相談できる
体制づくり

③児童虐待防止啓発
事業

みんなで取り組む安全安心まちづくり

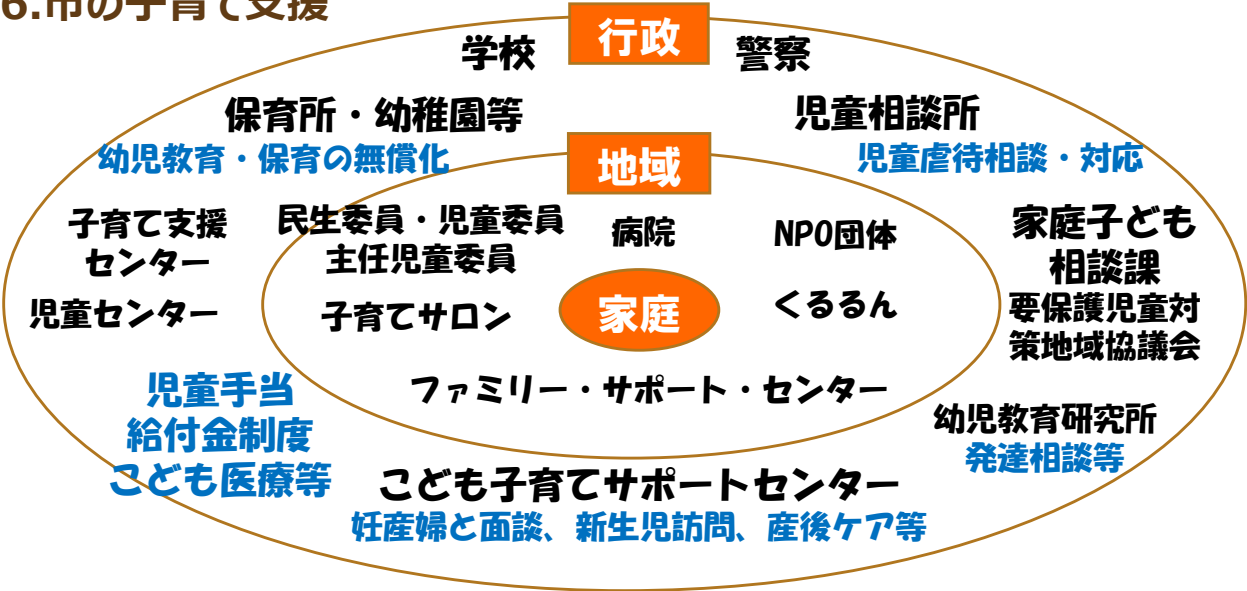
12

5.レベル別の対策

【図表14】

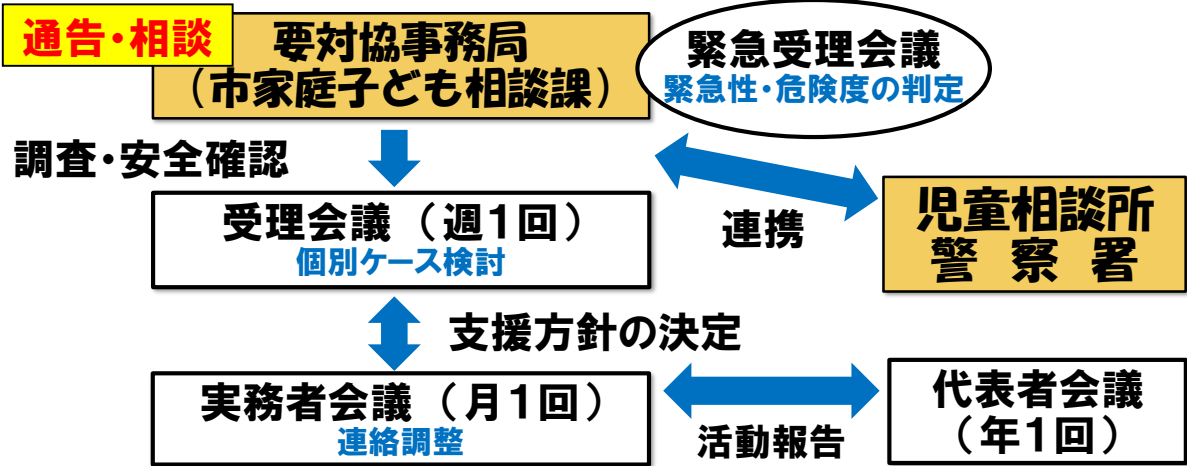
目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
地域で気軽に相談できる体制作り	教育・啓発		相談窓口の周知	
	環境整備		こんにちは赤ちゃん訪問事業	見守り活動
	規 制	子ども子育て支援法		【対策委員会】 ①新生児訪問事業の地域連携
命の大切さを学ぶ教育の支援	教育・啓発		相談窓口の周知 思春期保健出前講座	
	環境整備		校区子育てサロン実施の補助	校区子育てサロンの実施、参加
	規 制	子ども子育て支援法		【対策委員会】 ②赤ちゃんふれあい体験事業
子ども自ら相談できる体制作り	教育・啓発	児童虐待防止推進月間 (オレンジリボン運動)	オレンジリボンキャンペーンの実施	
	環境整備		子どもの権利等啓発事業	研修会への参加
	規 制	児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律		【対策委員会】 ③児童虐待防止啓発事業

6.市の子育て支援



7.市の児童虐待への対応

児童虐待対応体制～久留米市要保護児童対策地域協議会



みんなで取り組む安全安心まちづくり

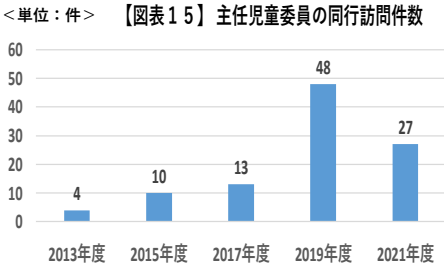
15

8-1-1.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携



地域で気軽に相談
できるきっかけづくり



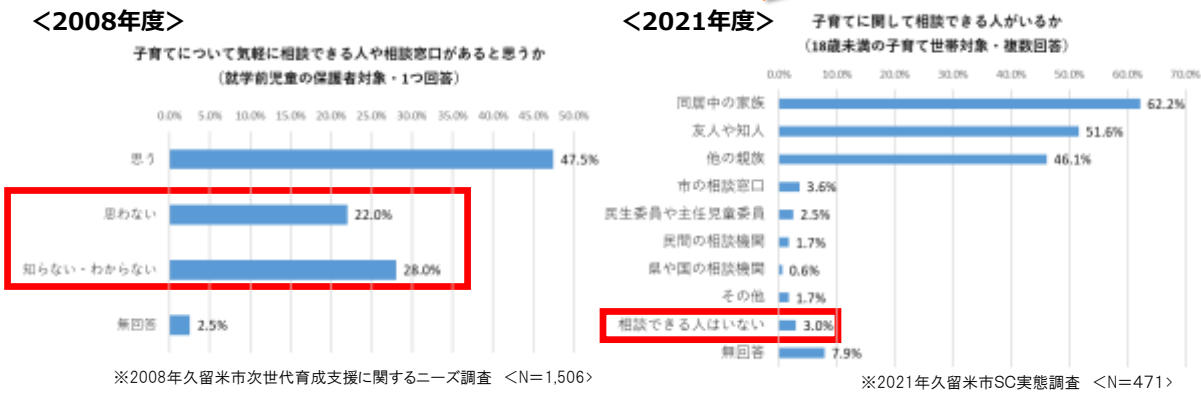
みんなで取り組む安全安心まちづくり

16

8-1-2.取組事例・成果

① 新生児訪問事業の地域連携

【図表 1 6】 子育てに関して相談できる人があるか



「相談できる人はいない」
の割合は少ない

8-2-1.取組事例・成果

② 赤ちゃんふれあい体験事業



命の大切さを学び
自尊感情が高まる



【中学生のアンケート】

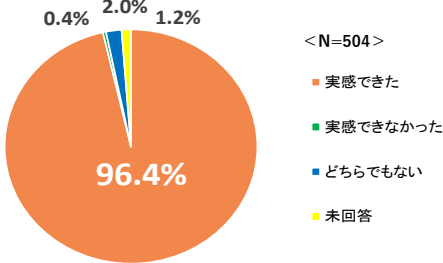
- ・赤ちゃんは、とても小さくて、柔らかくて、ちょっとしたことで壊れてしまいそう。
- ・あたたかくて、重さもあって、生きているんだな。
- ・将来、自分の子どもができれば、大切に、いい子どもに育てたい。

8-2-2.取組事例・成果

② 赤ちゃんふれあい体験事業



【図表17】赤ちゃんふれあい体験で命の大切さを実感できたか(2019年度)



みんなで取り組む安全安心まちづくり

19

8-3-1.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業



【図表18】啓発チラシの配布枚数

2019年度	3,095枚
2020年度	3,890枚
2021年度	6,686枚



子どもの権利
や児童虐待
についての
知識の向上

みんなで取り組む安全安心まちづくり

20

8-3-2.取組事例・成果

③ 児童虐待防止啓発事業

子ども自身から相談できる体制づくり

児童虐待防止講演会



子ども自らの相談する力等の育成を図る授業

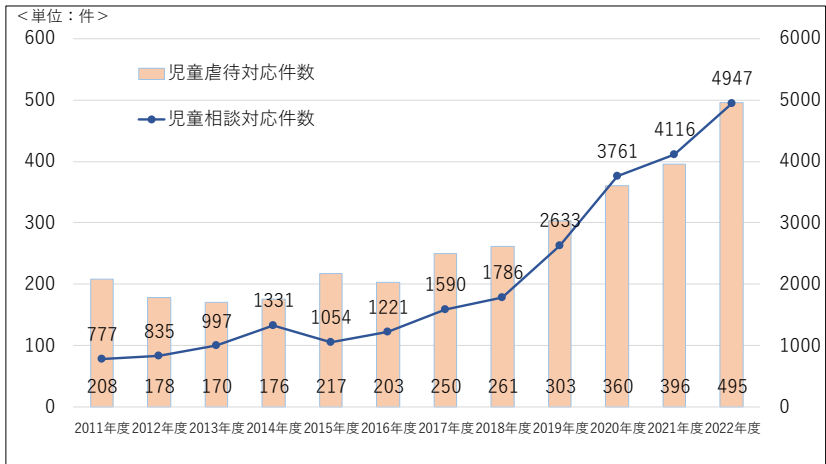


【図表 1 9】 授業・研修の実施数 (2021年度)

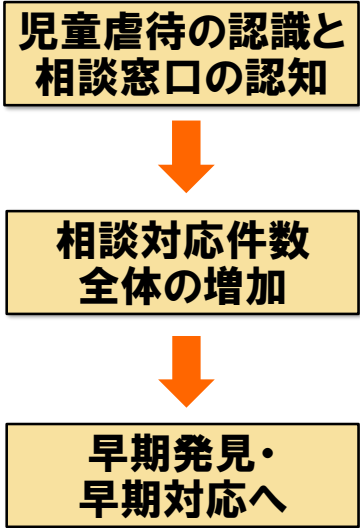
市立小学校 小学4年生対象	41校 83学級 約2,350人
教職員向け	43校
地域・団体向け	3地域 82人

9.取組による全体的な成果

【図表 2 0】 児童相談対応件数と児童虐待対応件数の推移



※久留米市家庭子ども相談課集計データ



10.新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫
児童虐待防止啓発事業

視聴回数 1,587回



子育て応援動画の配信

市と関係機関の
窓口で2,000セット



啓発グッズの設置・配布

みんなで取り組む安全安心まちづくり

23

11-1.再認証後の変化

1. 子どもが自らの相談する力やS O Sを発信する力の育成



- ・ 小学校4年生へ授業
- ・ 教職員向け研修
- ・ 地域向け研修

子ども自身から
の相談増加

みんなで取り組む安全安心まちづくり

24

11-2.再認証後の変化

2. 対策委員会間や関係機関との連携強化

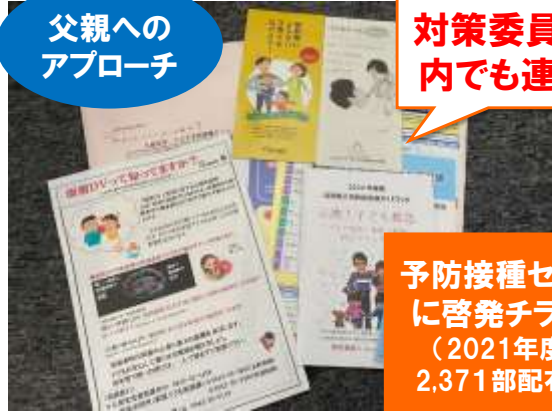
**DV防止
対策委員
会と連携**

**本庁舎
ライトアップ
(2021年度
2日間)**



**父親への
アプローチ**

**対策委員会
内でも連携**



**予防接種セット
に啓発チラシ
(2021年度
2,371部配布)**

みんなで取り組む安全安心まちづくり

25

12.課題と今後の対応

1.父親が虐待者である割合が増えてきている

・父親への啓発の工夫

2.相談窓口を知らない人が一定数いる、相談できていない人がいる

・気軽に相談できる取り組み

3.子ども自身からの相談が少ない

・「子ども自らの相談する力等の育成を図る授業」を継続的に実施



みんなで取り組む安全安心まちづくり

26

ご清聴ありがとうございました。



児童虐待防止対策委員会

